

平成16年度 山形市教育研究所 情報教育推進に係る調査研究
コミュニケーションシステムの活用
～ 教育研究会・中体連等の組織における活用事例 ～

情報教育推進調査研究 研究員
鈴木 修（山形市立西小学校教諭）

1 はじめに

山形市教育情報ネットワークのコミュニケーションシステムは、市内の公立小中学校のすべての教員が自分のアカウントを持ち、利用できる優れたシステムである。電子メールや掲示板をはじめとして多くの機能が用意されており、これらの機能を積極的に活用していこうとする試みも増えてきている。

ここでは、コミュニケーションシステムの特性を生かした取り組みの事例を紹介するとともに、より一層の活用と普及を図るために大切なことについても考えたい。

2 システム各機能の特性と使い分けについて

(1) 電子メール

- ・双方向性および即時性がある
- ・基本的に1対1のやりとり
- ・アドレス帳や配信コードを利用しての一括送信が可能

(2) 掲示板

- ・効率よく多数のユーザーに情報を知らせることができる
- ・大容量のファイル添付が可能
- ・掲示期間を設定 → 短期的な情報発信

【掲示板の使い方の例】

- ・会議、会合の案内
- ・会議資料の配布（事前・事後）
- ・大会要項や参加申込書の配布

(3) 共有キャビネット

- ・大容量のファイル添付
- ・長期的なデジタルデータの蓄積・共有

【共有キャビネットの使い方の例】

- ・指導案、資料などの蓄積・共有
- ・申請などに必要な様式の保管
- ・公開可能な記録の保管

(4) 回覧板

- ・利用者限定の情報回覧
- ・簡単なアンケートや会合の出欠確認可能

3 掲示板を中心にした活用事例

中体連専門部では、種目ごとに掲示板を設置し、各種大会の要項や申込用紙、メンバー表の枠、組み合わせ表などの配布を行っている。事務手続きが従来に比べて格段に速くなり、効率もよくなった。

4 共有キャビネットを中心にした活用事例

市小教研算数部会では、6月にコンピュータ研修会を実施し、指導案や学習プリントなどの資料を共有キャビネットに蓄積していくことにした。原則として著作権フリーとし、編集や二次利用が容易にできるファイル形式で資料の共有化を図っている。

5 普及を図るための操作講習会について

コミュニケーションシステムを活用していくために必要な知識や技能については、各学校で操作講習会等を実施して知らせていく必要がある。操作講習会については、情報ネットワーク運用支援事業（学校派遣）の協力を得て実施している学校も多い。しかし、講習会の回数、内容などについて課題を抱えている学校も少なくないのが実態である。

6 おわりに

将来的には、コミュニケーションシステムを児童・生徒の学習でも大いに活用させていくことが望まれる。そのためには、まず教員が使いこなし、各機能のよさや特性を十分に理解することが大切である。最近になって、市小教研や中体連で取り組んでいるような自主的な試みが他にも見られるようになってきた。今後すべての教員が「データや文書を積極的に公開・共有していこう」と意識していくことで、コミュニケーションシステムを一層効果的に活用していくことができるものと思われる。